

「偽陰性」に注意  
「受診迷う時」想定

# 抗原検査キット

## 日常でどう使う

感染を手軽に調べられ、結果も早く出る抗原定性検査キット。厚生労働省が業界での販売を特例的に認めたが、PCR検査などと比べ

**政府の感染症対策本部資料から**

検査の違い	PCR検査	抗原定性検査キット
精度	高い	体内のウイルス量が多い場合は高い
無症状者への使用	使用できる	推奨されていない
検査機器	専用の機器が必要	簡易キットだけで検査できる
結果が出るまでの時間	1時間	15~30分
使用検体	唾液(だえき)など	鼻腔(びくう)ぬぐい液
検査結果の有効期限	72時間	24時間
費用	3千円~数万円	数千円

背景には、ワクチン接種が進んだ段階で、経済活動再開を加速するのに活用したいとの政府の思惑がある。

検査キットは性質上、PCR検査などに比べ、感染していても陰性となる「偽陰性」が出やすい。このため厚労省は、購入時に薬剤師から使い方の指導を受け、「感染対策を続ける」となどを記した書面への署名を求める。無症状者の使用は推奨していない。

政府が想定する使い方は、「体調不良を感じたが、受診を迷うようなケース」だ。神奈川県はこうした使い方を試した。5～6月に県民にアンケートを実施。13万人から回答を得たところ、症状があつても「医療機関を受診しない」と回答した人が4割、「通勤や通学を控えない」とした人が4割い

私たちの日常生活でどう使われるのか。

た。そこで希望者のほか、幼稚園や保育園、小学生の子どもがいる世帯に検査キットを配布した。使い方を説明した動画や陽性になつた場合の相談先も用意した。

人が検査キットを使い、陽性者は5・0%の2159人だった。9月1日までの陽性者のうち161人を調べたところ、88%の142人が医療機関を受診、98%の158人が通勤・通学を控えていた。県医療危機対策統括官を務める阿南英明・藤沢市民病院副院長は「目の前で陽性と分かれば行動が変わる」と強調する。

国の承認を受けたおのれ性  
能が確認でもない製品が  
「研究用」として出回る問  
題もある。9月に横浜市の  
30代男性が自宅で死亡し、  
死後に陽性と判明。市によ  
ると、未承認と思われる検  
査キットで3回陰性が出  
て、医療機関を受診してい  
なかつたという。杉浦さん  
は「国が精度を担保するの  
は粗悪品排除のためにも重  
要」と承認済み検査キット  
の市販を評価。岡南さんは  
「手間でも承認済みキット  
を使ってほしい」と話す。

の結果なら有効とする方針を示している。イベント参加や帰省前に感染の有無調べるために使うため、症状がない人の使用が想定される。阿南さんは「無症状者に使う」とは慎重であるべきだ」とするが、QRコードによる感染経路の追跡なども併せて行うとされている。「接種を済ませた人が大半を占める状況になれば、陰性よりも陽性者を見つけることの意義が大きい。追跡システムを導入することで欠点をカバーするのだろう」と一定の理解を示す。

市販文書の承認済み検査キットは現在15種類。調剤薬局大手の日本調剤（東京都）は11日から全国の調剤薬局で、1個1980円（税込み）で販売していく。  
(姫野直行)